

2021年5月14日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 長谷川 弘

フィリピン国パラニャーケ放水路整備事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2021年4月30日(金) 14:00~17:01
- ・ 場所：オンライン会議 (Teams)
- ・ ワーキンググループ委員：奥村委員、長谷川委員、林委員、米田委員
- ・ 議題：フィリピン国パラニャーケ放水路整備事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】フィリピン国パラニャーケ放水路整備事業(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 回答表及び別添資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第124回委員会)

- ・ 日時：2021年5月14日(金) 13:59~17:38
- ・ 場所：オンライン会議 (Teams)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

代替案の検討

1. 代替案検討において評価軸を明確にするとともに、各評価軸の重み付け及び個別評価結果を明らかにし、DFR に記載すること。また、総合評価に到る客観的プロセスを具体的にステークホルダー協議で説明すること。

スコーピングマトリクス

2. 本案件では掘削土の量が多いため、残土処分場（仮置き場及び最終処分場）の選定・管理において、環境社会に悪影響を与えないように配慮し、結果を DFR に記載すること。

環境配慮

3. 開水路へのごみの不法投棄対策について、現地の有識者の意見を聴取して検討し、結果を DFR に記載すること。
4. 現地有識者の助言を得つつ、ラグナ湖とマニラ湾の両方の生態系の概要と水質汚濁の状況を明らかにした上で放水路による影響を評価し、必要に応じて緩和策を検討し DFR に記載すること。

その他

5. スコーピングで抽出された各環境社会項目の現況（ベースライン）調査手法に加え、影響の予測手法や評価手法・基準についても、できるだけ具体的に実施機関等に説明するとともに DFR に記載すること。

以 上